

救護訓練

【応急救護訓練】

医療機関で診療を受けるまでのとりあえずの処置のことですが、正しい手当てでなければ、かえって容態を悪化させたり、命に関わることにもなりかねません。救護訓練は専門的な知識や技術を必要としますので、消防署などの関連機関に参加してもらい指導を受けるようにしましょう。

自主防災組織の救護班は、住民参加の訓練とは別に、日本赤十字社や消防機関などが行う救命救急や応急手当講習などを受講して、より専門的な訓練を受けることが求められます。

大月市の出前講座を利用しよう！！

大月市消防署による「初期消火の指導」、「救急法の指導」、「普通救命講習会」の講習会を受けることができます。

問合せ先・申込先 秘書広報課 23-8005

① 搬送訓練

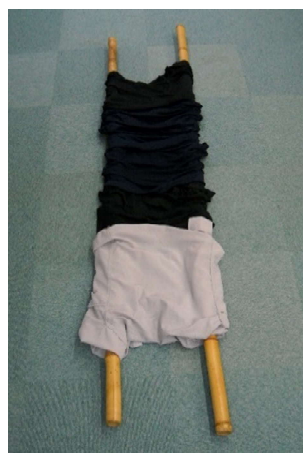
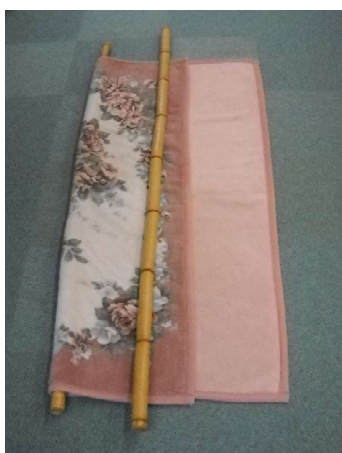
(1) 傷病者を搬送するため、身近な生活用品で応急担架をつくります。

ア 毛布等を利用した応急担架

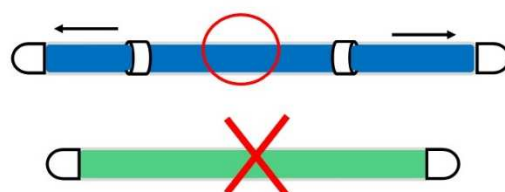
- ・ 毛布を地面に広げて置きます。
- ・ 毛布の3分の1よりも中心側に棒を置き、その棒を包むように毛布を折りまです。
- ・ 折り返される毛布の端にもう1本の棒を置き、その棒を折り込むように残りの毛布を折り返します。

イ Tシャツ等を利用した応急担架

- ・ 丈夫なTシャツ等を地面に置き、2本の棒を腕の部分に通して使用します。



一本物の物干し竿は、曲がりやすいので、なるべく両方から棒が伸びる竿を使いましょう。一本物しか無い場合は、端だけではなく、真ん中も支えましょう。



② 応急救護訓練

(1) 骨折している場合

- ・ 骨折している箇所に副木を当て骨折部分を三角巾などで固定します。
- ・ 副木がない場合は、代用品（雑誌、傘、ダンボールなど）などを使用します。



本、雑誌等で腕を包みラップを巻きつけ固定。



三角巾の代わりに買い物袋等のビニール袋で吊る。



足の両側を傘で挟みベルト等を使用し固定。

(2) 出血している場合

ア 直接圧迫法

- ・ きれいなガーゼやハンカチなどを傷口に当てて手で強く押しえます。
- ・ 出血が止まらない場合は、更にガーゼなどを重ねて幅広い包帯やタオルで縛ります。
- ・ 大きな血管からの出血で、片手で圧迫しても血が止まらない場合は、両手で体重を乗せながら圧迫止血します。

※ 感染防止のためゴム手袋やビニールの買い物袋などを使用して、血液に触れないように注意します。



イ 間接圧迫法

足や腕などからの出血の場合は、親指や手のひらで傷口から最も心臓に近い動脈を強く押さえて血の流れを止めます。傷口の直接圧迫だけで不十分な場合に行います。